

# 『安心・活力・発展の大分県』

～<sup>いのち</sup>生命を紡ぐ県土づくり～

## 1. はじめに

本県は、全国1位の湧出量を誇る別府や湯布院などの温泉をはじめ、「関あじ」「関さば」に代表される魚介類、品質・生産量ともに国内トップの乾しいたけなど、豊かな天然自然に恵まれています。

これらの個性豊かな地域資源に磨きをかけ、多くの県民が自信や誇り、愛着を持てる魅力ある地域づくりと、地域に活力や競争力を生み出す国際交流の推進を通じ、国内外から訪れる人と地域住民がふれあい楽しむツーリズムを振興しています。

私自身、「県民中心の県政」「安心・活力・発展」の大分県づくりを目指して、各種の施策に取り組んでいますが、まず何よりも、「安心」して生活できる環境を整えることが必要と考えています。地震対策や危機管理体制の整備、医療・福祉・小規模集落対策などのセーフティネットの強化などに取り組んでいます。また、「活力」を向上させるためには、雇用の場が必要であり、産業の底力をつけていきたいと考えています。

## 2. おおいた<sup>と き め き</sup>土木未来プラン2005

こうした中で、次世代の大分県を担う若者たちが、故郷を愛し、地域を誇りに思い、夢を描ける県土づくりのため、3つの戦略を掲げて取り組んでいます。

### (1) 安心して生活できる県土づくり

急峻な地形や大雨に伴い頻発する土砂災害や浸

水被害、大地震や濁水などに備えた施設の整備を進めます。また、交通死傷事故を抑制するための交通安全事業やユニバーサルデザインの理念に基づいた施設の整備を進めます。

### (2) 交通ネットワークの充実

広域交流を支える幹線道路ネットワークの整備を着実に進めます。特に遅れている東九州自動車道など高速道路網を重点的に整備します。医療や救命救急センターへのアクセス向上、また、地域経済を支える道路網や輸送拠点充実させ、観光客数の増加など交流人口の拡大を進めます。

### (3) 快適な生活環境の創造

都市部における渋滞の解消や安心・安全な都市構造を創出し、緑とオープンスペースの確保や景観にも配慮した快適な都市空間の形成を目指します。また、自然と調和した水辺空間や高齢化社会に対応した住環境の整備に努めます。

## 3. 効率的、効果的な事業の推進

本県では、厳しい財政状況を踏まえ、平成16年度から20年度の5年間をかけて行財政改革プランを実行し、歳出面では大規模施設の見直しや事務事業の選択と集中、総人件費の抑制を断行し、併せて歳入の確保や職員の意識改革を進めることにより、目標を上回る成果を上げることができました。

しかし、三位一体改革の思わぬ影響や米国の金融危機に端を発した国内外の経済悪化を受けて、

大分県知事 ひろ せ 広瀬 かつ さだ 勝貞



今後の財政収支の見通しは厳しさを増す状況であるため、さらなる行財政改革の取り組みを盛り込んだ「大分県中期行財政運営ビジョン」を今年3月に策定しました。今後3年間かけてビジョンに掲げた目標を着実に推進していきます。

#### (1) 厳正な公共事業評価の実施

限られた予算を適切に活用するため、学識経験者等で構成する第三者機関である「大分県事業評価監視委員会」が公共事業の再評価を平成10年度から行っています。この事業評価は、16年度から事前評価、19年度から事後評価についても実施しており、20年度までの11年間に再評価で諮問した事業数は427事業、うち397事業が継続、19事業が中止、11事業が休止の答申を受けています。

特に、昨年度の委員会では、「便益の出にくい事業については、貨幣換算している便益以外の効果についても定量化する方法を検討すべき」との付帯意見の答申をいただき、B/C（費用対効果）の多寡だけの評価に疑問符が付けられたところです。

県としては小規模集落対策等、少子高齢化に対応する施策を重要な課題と捉えており、特に過疎地域における道路改築事業については、B/Cにとられない、政策的な観点による1.5車線の整備などを監視委員会に提案したいと考えています。

#### (2) 設計VEの積極的な活用

さらに、本県では設計VE手法を活用することにより、必要な機能を落とすことなく効果を最大限

に発現し、コストを最少にする取り組みを進めています。平成16年度から20年度までの間に、18事業で約120億円のコスト縮減や工期短縮案を提案しています。

なお、設計VEをインハウスの職員で進められるように、VEリーダー等の資格取得を奨励し、自治体としては全国一の資格取得者数を誇っています。

## 4. おわりに

公共事業の効果を高めるためにも、事業コストの縮減は重要な取り組みとなります。また、これからの公共事業では、地域の実情に即して個別の機能に応じた効率的な整備を図っていく必要があり、そのためには使用者のニーズを十分に踏まえることが重要です。また、今後は施設の適切な維持管理と長寿命化も重要な課題です。公共事業の品質確保にも力を入れていきます。

こうした取り組みを行いながら、厳しい時代であればこそ、「子どもに夢を、暮らしに温もりを」という思いで、子育て満足度日本一を目指し、子どもたちの挑戦や自己実現を支え、いきいきと暮らし働くことができる夢と希望にあふれる大分県づくりにこれまで以上に力を注いでいきたいと考えています。